

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	3	対象学科	栄養
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントの理論、公衆栄養アセスメント、計画、実施、評価の理論と方法について学ぶ。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2. 公衆栄養アセスメントの方法（食事調査等）を理解する。
3. 公衆栄養計画の立案の手法について理解する。
4. 栄養疫学のデザインや考え方を理解する。
5. 公衆栄養計画の評価方法について理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	公衆栄養マネジメントの概念、プロセス	1	講義
2	公衆栄養アセスメントの枠組み、調査項目の設計、食事摂取量の測定方法（秤量法、24時間思い出し法、食物記録法、食物摂取頻度法、生化学的指標、身体計測値など）	2	講義
3	公衆栄養アセスメント：食生活状況調査票の作成方法	2、4	講義
4	公衆栄養アセスメント：暴露情報としての食事摂取量（食事の個人内、個人間変動、日常的な平均的な食事摂取量）	2、4	講義
5	公衆栄養アセスメント：調査の解析手法	2、4	講義
6	公衆栄養アセスメント：調査の解析手法	2	講義
7	公衆栄養アセスメント：食事調査結果の分析、課題の抽出	2、4	講義
8	公衆栄養計画：目標の設定、優先順位の考え方	3	講義
9	公衆栄養計画：事業計画（対象にアクセスするための地域資源の把握と連携）	3	講義
10	公衆栄養計画：事業計画（目的と対象にあったプログラムの作成、行動科学理論の活用）	3	講義
11	評価とモニタリング：プロセス評価	5	講義
12	評価とモニタリング：栄養疫学のデザイン	4	講義
13	評価とモニタリング：影響、結果評価	5	講義
14	まとめ	1-5	ディスカッション

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	食事調査マニュアルーはじめの一歩から実践・応用まで、	日本栄養改善学会、南山堂		
	わかりやすいEBNと栄養疫学	佐々木 敏 同文書院		
参考書	食事調査のすべてー栄養疫学ー	Willett W. 第一出版		
	Evidence-based Nutrition EBN栄養調査・栄養指導の実際	佐々木 敏 医歯薬出版		
その他の資料				

【評価方法】

- 出席 20%
- 積極的参加 20%
- 期末試験 60%

【履修上の留意点】

参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。